



図 11.29 Raynaud 現象 (Raynaud's phenomenon)

疼痛の強い潰瘍を生じる。17 章 p.332 を参照。

3. ^{レイノー}Raynaud 現象, Raynaud 病

Raynaud's phenomenon, Raynaud's disease



定義

突然指趾が蒼白化し、数分後に紫藍色（チアノーゼ）となり、びまん性潮紅を経て正常皮膚色に戻るという一連の現象をいう。全経過は数分から数十分である。基礎疾患なく発症することもあるが、膠原病などの基礎疾患に伴って出現するものが多い。前者を一次性 Raynaud 現象（primary Raynaud's phenomenon）ないし Raynaud 病、後者を二次性 Raynaud 現象（secondary Raynaud's phenomenon）ないし Raynaud 症候群と呼ぶ。

症状

一次性 Raynaud 現象は若年女性にみられ、一般的に軽症である。全身が冷却されるような状況（冬季や冷所作業など）や精神的緊張を契機に生じやすい。冷感、疼痛、しびれ感、浮腫感などの症状を伴い、指趾が蒼白となる（図 11.29）。チアノーゼを経て、回復期にはびまん性潮紅と灼熱感がある。チアノーゼや潮紅を欠き 2 相性や 1 相性になる場合もある。二次性 Raynaud 現象では症状が強く、指端の潰瘍を形成することもある。

病因

二次性 Raynaud 現象を生じうるものを表 11.6 に示す。Raynaud 現象は種々の原因による血流障害とそれに対する反応性変化である。蒼白化は、動脈の攣縮による虚血状態を示し、チアノーゼはうっ血状態を反映する。びまん性潮紅は反応性の

表 11.6 Raynaud 現象の原因

--

充血状態を示す。

検査・診断

基礎疾患の有無を検査する。サーモグラフィーで通常時の皮膚温の低下や、寒冷刺激からの回復の遅延を観察する。寒冷刺激試験(4℃の水に1分間手をつける)で誘発されることもある。若年女性で基礎疾患が見つからず、2年間経過すれば一次性Raynaud現象とみなして差し支えない。

治療

発作の原因となる要素を除去し保温する。プロスタグランジン製剤などの投与を行う。禁煙が効果的である。

4. 慢性静脈不全 chronic venous insufficiency ; CVI ★

同義語：静脈不全症 (venous insufficiency), うっ滞性症候群 (venous stasis syndrome)

定義・症状

下肢静脈瘤 (varicose veins, 図 11.30) を基礎として, さまざまな症状を呈するものをいう。中年女性や高齢男性に好発し, 肥満や立ち仕事の多い者に生じやすい。下肢浅在静脈がホース状, 結節状に拡張して蛇行する。側副血行路により網目状の静脈拡張をみることもある。進行すると下肢倦怠感, 腫脹, 疼痛, 色素沈着, うっ滞性皮膚炎 (7章 p.127 参照), 皮膚硬化〔硬化性脂肪織炎 (sclerosing panniculitis)〕を経て, 難治性潰瘍を形成する (図 11.31)。

病因

下肢静脈瘤は, 長期立位などで浅在静脈や穿通枝に弁不全を生じた一次性, 深部静脈血栓に伴う圧上昇や, 血栓性静脈炎後の弁破壊, 妊娠時の循環量増加などによる二次性, およびクリッペル・トレナウ・ウェーバー症候群 (20章 p.401 参照) などによる先天性に分類される。これらの機序により大伏在静脈や小伏在静脈の内圧上昇や還流障害を生じる。

治療

長時間の歩行や起立を避け, 下肢の挙上や弾性ストッキング着用を行う。静脈不全症の皮膚症状に対しては対症的に抗ヒスタミン薬やステロイド外用薬などを用いる。レーザーやラジオ波を用いた血管内治療, 硬化療法, 静脈拔去術, 静脈高位結紮術も考慮する。



図 11.30 下肢静脈瘤 (varicose veins)
静脈弁不全により下肢浅在静脈がホース状, 結節状, 囊状に拡張して蛇行する。

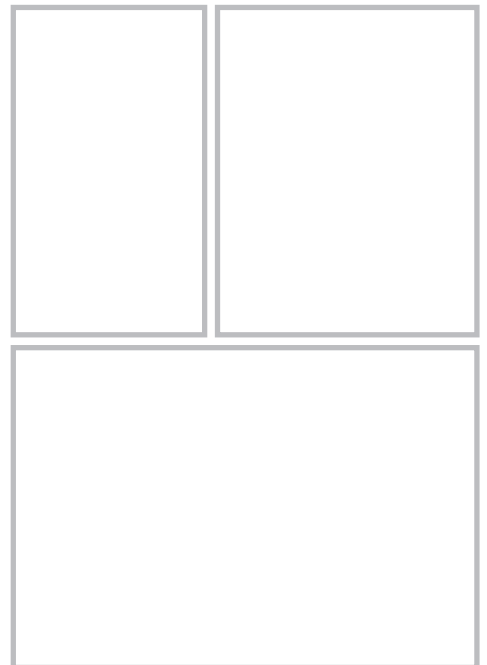


図 11.31 慢性静脈不全 (chronic venous insufficiency)